

平成30年度進学力を高める高校支援事業 (進学カパワーアッププログラム)

本校は、平成27年度より4年連続で「進学力を高める高校支援事業（進学カパワーアッププログラム）」の指定校となりました。この事業は、青森県教育委員会が県内の高校生が大学等へ進学するために各学校の進学力向上に関する事業を支援することを目的として行っているものです。本校では、キャリア教育の全体計画に基づき、学力向上と進学力向上をはかる数々の具体的な取り組みを行っています。本校の今年度の取り組みの様子をご紹介します。

1. 【進学カパワーアップを目指して】

本校では4年前から、1学年を中心に「夢ナビライブ仙台」（株式会社フロムページ主催／文部科学省後援）に参加しています。生徒自らが志望の可能性を広げようと多様な学問領域に触れることにより、主体的な進路選択を行うことが可能となっています。また、これを契機に学問に対して高い関心を持ち進学意欲も高まり、主体的な学習態度も養われてきています。1学年では、「夢ナビライブ仙台」のほかにも、大学見学会、探究活動として学部学科研究及びその発表会を行っており、年間を通してこれらに連続的に取り組むことでキャリア形成力を高めています。

2. 【事業の内容】

本校の「キャリア教育の全体計画」では、1学年のキャリア目標の第1に、「体験的な活動や社会との関わりを通して、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育成する。」と定めています。その目標達成のため、第1段階では、自身と社会の接点を学問領域を通して見出し、社会参画意識の向上につなげるための方策を展開しています。そこで、1学年を対象に以下のように事業を実施しました。

テーマ「自己啓発心の育成」と「学問研究の深化」

- (1) 東北地区大学見学会（7月31日～8月1日）参加者134名
（東北大学・宮城教育大学・宮城大学）
- (2) 弘前大学見学会（8月8日）参加者147名
- (3) 県内公立大学見学会（8月18日）参加者32名
（青森公立大学・青森県立保健大学）
- (4) 「夢ナビライブ仙台」への参加（10月6日～7日）
（会場：宮城県仙台市「夢メッセみやぎ」）参加者121
・大学説明会
・学問講義ライブ、大学教員によるガイダンス

「夢ナビライブ仙台」～参加生徒の感想～

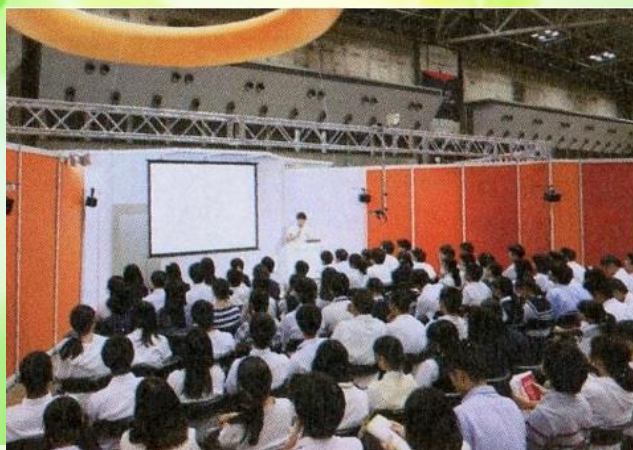
「大学の先生の講義を聴くことで、大学までに身に付けるべき学力や学習方法があるのだと自分自身の課題に気付いた。専門的な内容を知るだけでなくこれまでの学習方法を見直す機会が得られて良かった。」

「もともと興味ある分野を受講したが、講義を受けてさらに興味が増してきた。講義中に話が進めば進むほど、もっと知りたいと思うことが次々と頭に浮かんできた。来年度もぜひ参加したい。」

「建築空間と都市空間のデザインの講義に参加しました。インスタ映えするものは、美しい建築、きれいな景観ということだけではなく、「人を迎え入れる雰囲気を持った『人思い』」という配慮がされている設計であるということが分かった。改めて「人」、「心」が大切なのだと感じた。感覚的なことばかりではなく、学問として論理的に意味を考えることが必要なのだとも分かった。

「初めは特定の分野に興味があって参加したわけではなかったが、受講したすべての講義が興味深かった。学問の分野は多様であり、自分がまた知らない分野でさらに興味を持てるものがあるのでは思う。今後も積極的にこのような機会に参加し、もっと他の分野も知っていきたい。」

「グローバル感染症を扱った講義に参加しました。私たち日本人がどれだけ恵まれているかを認識しました。私を含めそのことに気付いていない日本人は多いのではないのでしょうか。もっと世界に目を向ける必要性を感じました。」



「講義を通して、どの教科においても自分が分からないことに対して関心を持ち、できるようにすると決意した。自分のやりたいことに真っ直ぐに、自分の道を突き進みたい。」

3.【本事業に関連した取り組み】

事業実施後に、事業成果をより確かなものとするために、以下の取り組みを展開しました。対象は1学年全員です。

- (1) 校外体験学習（10／10）
- (2) 3学年進路決定者ガイダンス「先輩から後輩へ」（1／28）
- (3) 学部学科研究発表会（2／26）

<それぞれの取り組みの概要または生徒の感想>

(1) の概要

社会参画意識の高揚を目指し、職業と学問分野の関連を知るために企業や施設における校外体験学習を実施しました。各職業の業務内容や社会的役割を学び、その課程で研究テーマを設定し職業の社会的意義や抱えている諸課題の研究発表を行っています。

体験学習訪問先事業所の分野 ※ () 内は訪問事業所数

- 1 医療 (4) 2 社会福祉 (1) 3 教育 (4) 4 旅行代理店 (1)
5 ホテル (1) 6 官公署 (5) 7 図書館・博物館 (3)
8 公施設 (2) 9 報道機関 (2) 10 通信関連 (4)
11 建設・他 (5)

～生徒の感想～

「インターネットのポータルサイト運営会社を訪問した。そこでは、社員の方々と今ある情報サービスをよりよいものにするためにはどうすべきか、人々が何を求めているかを議論することができた。AI技術が進む中、AIにはできない発想力こそ大事だと感じた。訪問前から八戸に拠点の1つがあるのが疑問だったが、新幹線・高速道路があり交通の便がよいこと、工業の高等教育機関があり優秀な人材が確保できることを説明していただいた。自分が住む地域のポテンシャルの高さにも気が付くことができて良かった。」

(2) の概要

国立大学にAO推薦入試で合格した3年生9名が合格体験談を語り、後輩へ質問に回答し助言を行った。

～生徒の感想～

「管理栄養士を目指している先輩のお話が印象的でした。りんごを用いた副食・中食の研究を受験勉強のさなかにも行っていることを知り驚きでした。おいしさだけでなく栄養学的な立場でりんごの皮に焦点をあてて青森県の高齢者の健康を考えていることにすごさを感じました。学問を通しての使命感を強く持っているのだと感心しました。私も、日々の生活の中に疑問を持ちその解決を目指す意識を持ちたいと思います。」

(3) の概要

学部学科の系統を6分野に分類し、志望に合わせて系統を選択します。2～4名でグループを作り、系統に合う学科を決め、グループごとに当該学科を設置している大学を選んで調べ研究発表を行いました。同一学科であれば大学が重複しないように調整しています。発表会では、ポスターやスライド資料を用いています。



～生徒の感想～

「各大学のアドミッションポリシーを知ることによって、大学に入学する前にどんな能力が必要になるのかが分かった。特に、AO入試、推薦入試の制度と何が求められるかが分かった。」

「発表の全体を通して学部の特徴を比較できて、やりたいことのイメージを膨らませることができた。」

「他の生徒が志望する大学の発表を聞くことで、自分が進学したい大学と他の大学とを比較できた。これによって、より自分の志望理由を明確にできると感じた。」



「学部全体の説明だけではなく研究室の内容を詳しく発表してくれたグループがあり、とても参考になった。おかげで自分達のグループが調べた以外の大学にも興味を持つことができた。」

「大学の教育課程に関する詳しい発表があり、進学後に学ぶ科目を理解できてよかった。学費について紹介した班もあり、経済的な面も考慮して進学先を選ばなくてはならないと改めて感じた。」





「スライドショーがきれいにまとめられ分かりやすい発表をしてくれて、内容だけでなくプレゼンテーションの仕方もとても参考になった。自分も表現力をそのように高めたいと思った。」

「全部の発表を聞いて、これから自分が何をすべきなのかじっくり考えて実践したいと思った。」

4. 【本事業を終えて】

事業を実施する前に行った1学年進路志望調査では、大学進学志望者は171名（学年全体数の74.3%）であったのに対し、事業実施後の同調査では、大学進学志望者は202名（88.2%）にまで上昇しました。31名（13.9%）の増加です。進路未定と回答していた生徒の28名中18名が大学進学を志望するようになり、進路目標を明確に定めるまでに至っています。志望先も地元の大学や大学見学会やオープンキャンパスに参加した大学に限定されることなく北海道から沖縄県まで全国へと広がっており、これは前年度と同じような傾向です。選抜性の高い大学（旧帝国大学等）の志望者も33名となっています。事業の実施によって、生徒の進学意欲が高まったと評価しています。

選抜性の高い大学への志望者の増加により、多くの生徒が総合的な学力を養おうと全教科に対して主体的に取り組んでいると感じられます。グループでの学部学科研究とその発表までの一連の取り組みにより、キャリア形成の意識も高まってきています。今後もこのように事業の成果を活かし、高い目標を持った進路選択ができるよう指導を継続していきます。

（平成31年3月 進路指導部）